



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために  
頑張っている団体・人を知っている

# “楽しい!”で 地域を元気に!

きっずボランティア講座



**福祉** 手話を使ってお買物体験



**まちづくり** いろんな素材から広がる遊びの発想



**国際交流** インドネシアとZoomでつないで交流



**アート** 想いを込めた、人形づくりのひととき

市内の小中学生が地域で活動する大人たちと出会い、お話やワークショップを通して市民活動や社会課題について知る。その経験を通して、子どもたちが将来「自分も地域のために動いてみよう」と思い、実際に行動へ踏み出せる大人へと育ててほしい—そんな想いから「きっずボランティア講座」は始まりました。

2022年度のスタート以来、子どもたちは福祉、環境、アートなど、多様な分野で地域を支える大人たちの話に触れてきました。講座後のアンケートでは「家族の会話で『この前の講座でも言ってたよね』と講座内容を引用する場面があり、理解が深まっているように感じた」といった声も寄

せられています。

こうした気づきや小さな変化の積み重ねから、子どもたちが地域の出来事により関心を向けたり、人の役に立つ行動を身近に感じたりする姿も見られるようになっていきます。

今年度は、この流れをさらに広げ、各地区での展開を始めます。子どもたちが身近な地域で活動者と出会い、社会や地域の課題に触れ、自分の役割を見つけていく。そんな循環を育んでいくことを目指しています。

子どもたちの小さな一歩が、地域の未来をつくる力になる。みなさんといっしょに、この取り組みを進めていけたらうれしいです。

今年度のきっずボランティア講座の最新情報は



チェックしてみよう!



## ページの先にある出会い



ページを開くたびに、新しい誰かと出会える。

大好きな本を通じて、地域の交流を生み出している人たちがいます。

### 家庭文庫ちいさいうち #東田中地区 #多賀城の家庭文庫

自宅の一室と1,200冊近くある絵本や児童書を開放し、本の貸し出しや読み聞かせを通して、子どもたちが本と出会う場と地域のつながりをつくっている「家庭文庫ちいさいうち」。子どもの頃から本が好きだったという佐々木優美さんが、新聞で家庭文庫の記事を読み、興味を持ったことをきっかけに2013年4月に開館しました。

もっと気軽に本と触れ合ってほしいと、さまざまな人が集まる公園での絵本図書館も計画。加瀬沼公園で開いた「青空文庫」では100冊近い絵本を並べ、公園を訪れた親子に絵本と過ごす時間を提供しました。

佐々木さんが活動を始めたときから一貫しているのは、「子どもに本の楽しさを伝えたい」という想い。その温かな情熱が、これからも子どもたちがホッとできる時間を育んでいきます。



↑「青空文庫」で思い思いの時間を楽しむ子どもたちと佐々木さん。

### サーラ文庫 #大代地区 #多賀城の家庭文庫

東日本大震災後、「地域の人たちと絵本を楽しむ場をつくりたい」という想いから始まったサーラ文庫。家族所有のたくさんの本を活用できないかと考えたことがきっかけです。読み聞かせのボランティアも行っていることから、今後は、必要とされる場所に出向いての出張読み聞かせをやりたいと考えています。「大人でも楽しめる児童書があるので、大人向けの読み聞かせも始めたい」と今後の展望を話してくれました。



↑読み聞かせの絵本に登場したキャラクターを折り紙でつくことも。

### Bookcafe SAFARI #伝上山地区 / マニマニ読書会

「本を通して地域の交流を生み出したい」「日常を離れて人が集まる場所をつくりたい」。オーナーの岩久保円花さんのそんな想いをきっかけに、2024年4月、「Bookcafe SAFARI」はオープンしました。お店を開いてから、地域や地域に住む人たちの魅力に気づいたという岩久保さん。「今後も読書会やイベントを開き、読書で人が交流できる場をつくっていきたい」「より多くのZINE(個人発行の小冊子)を置いて、作り手と読者をつなげたい」と話します。これまでに、謎解きイベントや公民館と連携した怪談ナイトなども開催。これからも、好奇心旺盛な人たちが楽しめる場を目指して、新しい出会いと体験を届けます。



↑地域に根差した自主制作本は、他のお客さんからも大人気です。

岩久保さんもメンバーとして活動しているのが「マニマニ読書会」。個別に読書会を開いていた3人が意気投合し、合同でピクニック読書会を開いたのが立ち上げのきっかけです。メンバーの共通点は、本について話すのが好きということと、本が好きな人との出会いを大切にしているということ。アイデアを持ち寄って、参加者と一緒にさまざまな挑戦をしながら、固定観念にとらわれない自由な会にしたいという想いがあります。

1冊の課題本を読んで語り合う回もあれば、みんなで料理を作って食べながら本を読むことも。今後も、企画と読書の、そして参加者同士の化学反応を生み出していきます。



↑ピクニック読書会の様子。メンバーのユニークな視点が光ります。



「tag(たっぐ)」には、多賀城(tagajo)の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ